

こんにちは 日本共産党綾部市会議員 いだ かよこです



2015年2月 第16号 綾部市味方町畦田30
電話・ファックス 0773-43-3255 携帯090-5012-9039
ブログ「こんにちはいだかよこです」 <http://dog.ap.teacup.com/idakayoko/>
議員団の「こんにちは」もあわせてご覧ください



教育充実を求める請願に賛成の討論

みなさまの大きなご支援を頂き、2期目をスタートさせて頂いたいただきました。市民のみなさまのお声をしっかりお聞きしながら、気を引き締めがんばります。

昨年行われた総選挙でも、日本共産党衆議院8議席から21議席へと大きく躍進させて頂いた頂きました。あらためてお礼を申し上げます。綾部市議会では「憲法改正を求め」請願が共産党以外の賛成で採択され国に意見書が送付されました。「集団的自衛権行使容認閣議決定撤回し、立法化に反対する意見書提出に関する請願」は共産党以外の反対で、不採択になるという状況です。

国会でも、市議会でも「ぶれない党」として「対決・対案・共同」を掲げ、命と暮らしを守るために全力で頑張ります。皆さまの変わらぬご支援を心からお願いいたします。

綾部市議会議員

井田佳代子

高浜原発3、4号機の施設内に入りました。今回は、使用済燃料プール、原子炉建屋内部まで入りました。管理区域のため、作業員と同じく、つなぎ服、靴下、手袋、ヘルメット着用、不必要に壁や床を触らないようにと注意を受け、「何重にも施された安全対策」をみてまわりました。

原子炉建屋内にスプリングラックが設置され、水素濃度を下げる対策も行われ、停電の時に必要な電源車、タンク車が間隔を置いて配置されています。原子力発電は重要な電源で必要不可欠であるという関電の考え方は変わりません。国内の原発は1年4カ月すべて停止していますが、国民の節電努力で電力不足は起きていません。高浜原発の3、4号機が再稼働の前提となる新規規制基準に適合していると決定しましたが、原発を稼働すれば増え続ける「危険なごみ」（使用済核燃料）の処理方法は確定していません。原発があるかぎり避難計画が必要ですが、実効性のある計画はできていません。



高浜原発

防災対策特別委員会視察 高浜原子力発電所

昨年、福井地裁が大飯原発再稼働運転差し止め判決を出しました。国民の命よりもコストを優先する考え方をきっぱり退ける判決で、大飯原発を運転してはならないという画期的なものです。

「被告は本件原発の稼働が電力供給の安定性、コストの低減につながると主張するが、当裁判所は、極めて多数の人の生存そのものに関わる権利と電気代の高い低いの問題等を並べて論じるような議論に加わったり、その議論の当否を判断すること自体、法的に許されないと考えている。」（人格権はあらゆる法分野で最高の価値を持つとして優先されるべきであるから）

「コストの問題に関連して国富の流出や喪失の議論があるが、たとえ本件原発の運転停止によって多額の貿易赤字が出るとしても、これを国富の流出や喪失というべきではなく、豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができなくなることが国富の喪失であると当裁判所は考えている。」

電気の地産地消

(スマートグリッド)

火力発電や水力発電とともに、太陽光、小規模水力、バイオマスなどの発電を組み合わせます。二酸化炭素排出量が多い火力発電を減らしながら、その他の発電を増やしていく必要があります。綾部にも小水力発電所があります。山家発電所 大正8年運転開始 新由良川発電所(戸奈瀬) 大正13年運転開始 (平成3年新由良川発電所として再開)

人がいて、あたりまえのくらしがあることが基本です。匂いもない、色もついていない放射性物質、放出されればすべてを回収することができません。回収しても、煮ても焼いてもなくなりません。世代を超えて健康被害を及ぼすのが被ばくです。

大規模な発電施設ではなく、再生可能エネルギーの小規模発電施設をたくさん作ること(電気の地産地消)が必要ではないでしょうか。



4回目の冬を迎えた浪江町からの報告

稼働する覚悟はあるか、考えてほしい。」と、結ばれました。災害で亡くなった方より、関連死のほうがはるかに多くなっているのが現状です。

避難指示が出された時、通常30分で移動できる距離は4時間かかり、まるで地獄絵図のようだった。放射線量が高いことが分かったと、近づくことに危険を感じ、避難所に物資は届かなかった。

3年10カ月職員は本当によく頑張ってきた。今、職員にストレスが広がっている。

この現状を知っても、原発を再稼働する覚悟はあるか、考えてほしい。」

福島県浪江町・馬場町長さんの報告を聞きました。

(浪江町は今も日中の立ち入りはできるが宿泊はできない地域です。)

「原発事故その時どこへ」

「家族がバラバラに避難、あの原発の事故から1451日目、苦しい日が続くと続いている。想像してみてほしい。」

浪江町は7600世帯、今11,000世帯になって全国に散らばっている。京都には41名が住んでいる。子どもたち1800人は、699校に転校している。仮設住宅での生活は3年10カ月、朽ち果て雨漏りがしている。当り前の生活が戻らないということ。イメージしてみてください。

放射線量が非常に高いことを、国や東電、県は住民に知らせなかった。偶然見たテレビで、初めて避難区域であることを知った。

「税と社会保障の一体改革」の具体的な内容は…



2012年に決定した「社会保障制度改革推進国民会議報告」という文書にかかれています。
難しい国の文書を介護保険中心にものすごく簡単に「綾部弁」でいうと…。

これからの日本の社会保障は、まずはとことん自分でがんばってもろて、それが無理やったら、まあ、親兄弟親戚縁者やら近所の助け合いでなんとか頑張ってもろて、それでもアカンかったら、最後の最後に国が助けよかゆう感じですよ。

2025年いうたら団塊の世代がみんな75歳以上になってやろ、75歳以上の高齢者がものすごい人数になってしまうんです。このままほっといたら医療への国庫負担がすごいようけになりますやろ、そやさかい、なるべく国からお金出さんでよいように、病院に入院しとってん患者さんにはどんどん退院してもろて、家に帰ってもらいたいんです。

病院があつたら、みんな一病院に行ってやし、ベッドがあるさかい、みんな一入院したい言うてやろ。そやさかい病院とベッドは減らさしてもらいます。

ほんな家に帰っちゃった患者さんの面倒を誰がみるんやいうことですけど、それを介護保険でみてもらいたいんです。なんでかいうたら、医療より介護の方がお金かかりませんから。これをきれいな言葉で「川上から川下へ」っていうんです。そやさかい、これからの介護保険は家に帰っちゃった患者さんのためのもんなんです。

家事の手伝いだけしてほしい「軽度」の高齢者は患者とはちがいますやろ、そんな患者とちがう人には、地域の民生委員さんとか老人会とかにおいてん元気なお年寄りに、ボランティアでもしてもろて、そっちをつこてもらいたいんです。

年取ったさかいうて、誰かに面倒見てもらうなんて、大きなまちがいですわ。80になっても、90になっても、自分のことは自分でせなあかんし、元気なお年寄りはボランティアでもしてもろて、「支え手」になってもらわんとねー。それが自立した年寄りいうもんです。



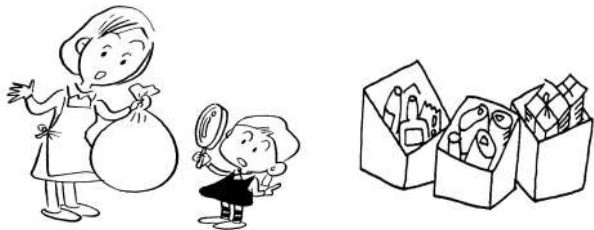
そうそう、一応、365日24時間、地域でくらせるための仕組みを「地域包括ケアシステム」いうんです。

…綾部弁ならこうなります。



上林小中学校音楽室にて…
木が多く使われていて、あたたかさが伝わってきます。

24年度
燃やして処理するごみ（事業系） 2,085トン
（家庭系ごみ） 6,313トン
施設管理費・収集費 580,946千円
ごみ1トンあたり @5,6千円
家庭系ごみの紙類をすべて除くと
3,150トン×5,6千円 = 17,640千円
これだけのごみ処理経費削減となります。



「ごみを減らすことが、経費の削減になるというのはどういうこと？」
綾部市のごみ集積所に出されている「燃やして処理するごみ」の袋の中には、紙類、生ごみ、ポリ、プラスチックが入っています。
このごみ袋の中の紙の割合は、50%です。
どうすればごみを減らせるかですが、分別して地域や団体の古紙回収にだしていただくことで資源にすることが出来ます。多くはありませんが、地域によっては、古紙回収保管ボックス（市が設置経費の3分の2、上限5万円補助）を設置されています。いつでもボックスの中に入れることが出来ます。はがきや、ダイレクトメールなど、よく見るとまだ資源にできる紙類があるのではないのでしょうか。
（カーボン紙や、感熱紙、のりやシールのついたもの、ラミネート加工した紙、食品やせっけんなど汚れやにおいがついたものは資源化できません。）
舞鶴市では毎月1回、福知山市では月2回紙類を収集しています。
綾部市も市として紙類の回収をするよう求めています。

ごみの減量化についてご質問をいただきました。

綾部市のクリーンセンターは、平成14年11月から「可燃ごみから固形燃料（RDF）を製造し、発電をするごみ処理方式を採用してきました。」

発電開始10年、クリーンセンターの発電施設は、維持管理費（定期点検）が多額で、将来的に市の財政に与える影響が大きいとの判断で、平成24年発電を中止しました。RDFはそのまま埋め立てすることができません。

現在RDFの処理は外部委託をしています。

- 1キロ21円（搬出・処理・消費税含む）
- 1日平均 16トン
- 1か月約370トン

日本でも世界でも、「5R」が進められています。

- 不要なものもらわない（リフューズ）
- ごみを発生させない（リデュース）
- 繰り返し使う（リユース）
- 修理して使う。（リペア）
- 資源として再利用する。（リサイクル）



消費税増税、集团的自衛権行使容認、原発再稼働反対